

## 太幌橋に関する調査メモ

2016年8月31日

作成者 宮森保紀

(北見工業大学 社会環境工学科)

調査者：北見工業大学 社会環境工学科 宮森保紀

調査日：2016年8月26日（金）、28日（日）

調査箇所：太幌橋（北見市常呂町）（N44°2'39", E144°1'30"）

8月25日調査を行った渡邊（康）教授、川尻助教、渡邊（達）助教のメモに以下の情報を追加する。

### 1. 橋梁の概要

竣工：1963年（昭和38年）

上部構造形式：2径間単純合成桁橋

下部構造形式：逆T式橋台（左岸,右岸）、壁式RC橋脚（P1）、ケーソン基礎

橋長：60m（2@29.85m）

荷重：昭和30年建示 2等橋

本橋は1963年に架設された橋梁である。橋台はいわゆるピアアバット形式になっている。架設から50年以上が経過しており、床版地覆の凍結融解による欠け落ちなど劣化が顕著で、今回の豪雨災害以前から橋梁点検によって把握されていた。

### 2. 構造物の被害状況

今回の豪雨では、写真-1のように左岸側橋台背面の盛土が流出している。北見市ホームページ<sup>1)</sup>で紹介されている太幌橋の写真（写真-2）と比較すると、左岸下流側で相当量の流出があったことがわかる。

橋梁本体については、左岸橋台は背面土が流出し写真-3、写真-4のようにウイングが完全に露出した状態になっているが、上述の劣化のほかに今回の豪雨で損傷した形跡は認められなかった。また、写真-5のように橋脚の上流側に若干の流木の堆積があるが、橋脚においても損傷は認められなかった。



写真-1 下流から撮影（8月26日）（右：左岸、左：右岸）



写真-2 下流から撮影（文献1から引用）（右：左岸、左：右岸）



写真-3 左岸橋台（上流側）



写真-4 左岸橋台下流側ウイング



写真-5 橋脚への流木体積状況

参考文献

- 1) 北見市：常呂川に架かる橋の歴史と写真、  
<http://www.city.kitami.lg.jp/docs/2014121100011/>, 2015.1

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀  
eメール： miyamoya (at) mail.kitami-it.ac.jp